

第1回教育委員会（定例）議事録

1 開 会

令和3年4月22日（木） 14時00分

2 場 所

市役所本庁舎4階 401・402会議室

3 会議に出席した委員

教育長 丹後 政俊

委 員 酒井 克典

委 員 中村 貴子

委 員 垣内 敬造

委 員 山本 恭子

4 会議に出席した職員

部長（学校教育担当） 稲山 悟

部長（生涯教育担当） 小林 康弘

次 長 西羅 忠和

次長兼教育研究所長 酒井 宏

教育総務課長 中野 悟

学 事 課 長 山本 毅

学校教育課長 岸田 幸雄

東部学校給食センター所長 酒井 直隆

西部学校給食センター所長 石田 哲也

こども未来課長 竹見 朋子

社会教育課長 谷掛 昭二

文化財課長 村上 由樹

中央図書館長 小島 理三

田園交響ホール館長 小林 純一

総 務 課 長 河南 剛

公 民 館 長 大路 和浩

学校教育課副課長 采女 達也

教育研究所副所長 大野 圭一

教育総務課係長 田中 真紀子

5 議事日程及び議案

別紙の通り

6 開会宣言

14時08分

7 会 期

（自）令和3年4月22日

（至）令和3年4月22日 1日間

8 会議録署名委員名簿

山本 恭子 委員

9 閉 会

15 時 39 分

丹後教育長 全委員 丹後教育長	<p>日程第 1、令和 2 年度第 19 回会議録の報告、承認について意見等はないか。 異議なし。</p> <p>全員異議なしで、会議録をこのとおり承認する。</p>
丹後教育長	<p>日程第 2、会議録署名委員は 4 番山本恭子委員とする。</p>
丹後教育長	<p>日程第 3、会期は令和 3 年 4 月 22 日、本日 1 日間とする。</p>
丹後教育長	<p>日程第 4、承認に移る。承認第 1 号の「学校運営協議会委員の任命について」、教育研究所説明を求める。</p>
大野副所長	<p>《議案書に基づき説明》</p>
酒井委員	<p>城北畑小学校は 3 名の委員が替わられたが、これにより協議会委員の男女比、年齢構成はどのようになったのか。</p>
大野副所長	<p>全体での値となるが、教職員除いて、女性委員の割合が昨年度 30.9%だったのが、今年度はこの 2 校の交替及び昨年度中の交替により、28.6%になっている。年齢は把握できていないので改めて学校から提出のあった資料を確認する。</p>
酒井委員	<p>学校運営協議会の「協議」とはどういうことを指すと考えているか。</p>
大野副所長	<p>地域の方、学校職員で話し合うことだと考えている。</p>
酒井委員	<p>「協議」を行うためには、人選においてどのようなことが必要か。</p>
酒井次長	<p>学校環境、地域実状のことを、広い視野、知見を含んだ専門的部分を持っている者で協議することが有効的な協議になるので、そういう人選をすることだ捉えている。</p>
酒井委員	<p>教育委員会もそのように指示しているので、学校運営協議会は変わってきていると思っている。「協議」ができるということが、協議会を発展させる大きな要素になる。よって、人選については充て職をしない。これをしなければ、協議会が、「協議」にならない一方的な伝達になってしまう。目的が達成できないことになろうかと思う。教育委員会事務局が、学校運営協議会の方向性を出していることは評価はしている。都合の良い方を選ぶのではなく、「協議」ができる人を見つけてくるのが校長の仕事である。協議会が形骸化しないようにして対応をしてほしい。</p>
丹後教育長 全委員	<p>承認第 1 号の「学校運営協議会委員の任命について」承認することに異議はないか。</p> <p>異議なし。</p>

丹後教育長	全員賛成で、承認第1号の「学校運営協議会委員の任命について」を承認する。
丹後教育長	日程第5、報告事項に移る。報告1「寄附採納について」教育総務課報告を求める。
田中係長	《議案書に基づき報告》
丹後教育長	報告2「後援名義の承認について」教育総務課報告を求める。
田中係長	《議案書に基づき報告》
丹後教育長	報告3「令和3年度中学校部活動支援の状況について」、学校教育課説明を求める。
酒井次長	《議案書に基づき報告》
酒井委員	部活動指導員は昨年度初めての任用で課題もあったと思うが、今年度、部活動はスムーズにスタートできているか。
酒井次長	今は新1年生が部活動見学をしている段階で、入部決定する時期はもう少し後である。人数不足でチームが組めないという部活動も出てくるという課題は想定している。現時点ではスムーズにスタートしていると捉えている。
中村委員	昨年度の部活動指導員の課題について教えてほしい。
酒井次長	10名の指導員を任用し、16部活動に配置した。学校からの報告によると、指導員は顧問と連携して部活動の指導、支援、引率などに活躍いただいた。課題として、指導員と顧問の打ち合わせや調整時間がうまくとれないということであった。これは部活動指導員の勤務時間が影響しており、調整がしにくかった。また、その部活動の技能に長けていない顧問と、長けている部活動指導員との技術的な差によって、生徒への指導の方向性を調整するのに時間を要したということもあった。顧問と指導員の間で十分な打ち合わせをしたうえで進めて行くことが必要であるということは全学校で認識している。今年度も部活動指導員が決定したら、配置と学校間の調整をし、5月以降スムーズに部活動運営ができるよう教育委員会でもみていく。
中村委員	打ち合わせ、調整がしにくいとのことであるが、昨年度も学校掛け持ちの部活動指導員もいた。掛け持ちでは更に調整が難しいのではないか。
酒井次長	その点はある。昨年度、吹奏楽部部活動指導員は3校掛け持ちであった。また、同じ学校で複数の部活動を掛け持ちした部活動指導員もあった。異なる学校の掛け持ちは、顧問と部活動指導員が対面ではできなくても、メール・電話等で連絡をとる必要があることは理解している。今はどんな人材が採用になり、どういう体制かは未定であるが、採用にあたっての選考を十分にし

丹後教育長	ていく。 今年度から配置してる部活動推進員は、顧問と部活動指導員間の連携や調整することも期待できると思うが、部活動推進員の役割についての説明を求め。
酒井次長	議案書 P.8 に部活動推進員 5 名の配置について記載している。令和 3 年度からスタートした初めての制度である。部活動推進員は、中学校や地域のスポーツ・文化活動において指導経験を有する人として任用しているので、得意とする部活動もあると思う。部活動全般をみていくということは、経験が必要になってくる。部活動推進員には、現段階では部活動に関わる教員の動きを見たり、校長から学校方針を聞いたり、部活動を理解をするために、4 月は学校に慣れてもらうところからスタートである。制度が充実していくようじっくりやっていきたい。
垣内委員	部活動推進員は、顧問と部活動指導員の間をとりもつ立場と聞いたが、将来的に顧問が見つからない場合、顧問を兼務することはできるのか。
酒井次長	議案書 P.9、2「想定している業務」(1)の 2 つ目、3 つ目になるが、部活動練習の指導や補助、準備。大会や練習試合等の引率や指導または補助等を設定している。部活動推進員が特定の部活動の顧問を兼ねることは想定している。
丹後教育長	報告 4「令和 2 年度丹波篠山市学校運営協議会の総括について」教育研究所説明を求め。
大野副所長	《議案書に基づき報告》
中村委員	コロナ禍の中、多くの課題に果敢に取り組まれた学校と、何も取り組めなかった学校との差を感じた。 コーディネーターとなり得る人材の発掘は校長の手腕が大きいところはあるが、PTA 役員からの推薦があっても良いのではないかと。PTA 活動は、地域におられる適材適所の人材にお世話になることが多い。地域の応援団を見つける近道になるのではないかと思うので検討してほしい。 各校の取組の中で「掲げる」、「実行する」、「改善に繋げる」と一連の成果がある学校は、目的にとどまらない取組をしている。「花を植える」「音楽会を開催する」という事業も良いが、そこからもう一歩、ふるさと教育活性化に繋がる報告を期待している。
酒井委員	学校運営協議会の活動を、地域学校協働活動の方を中心と捉えているところが多いのではないかと危惧している。様々な活動をされているが、活動ありきではないと私は思っている。協議会は地域で育てる子どもたちの目標ビジョンの共有である。これを熟議のなかで方向性を示していく。みんなで共有して地域の子どもの育てることが協議会の一番の目的である。そのために、学校は子どもたちが現在の状況などを地域の方にわかっていただき、学校教

酒井次長	<p>育目標を説明し、共有できてこそ事柄が進む。学校運営協議会の内容については報告義務があるが、学校現場からの報告は出てきているのか。</p> <p>それぞれの学校で学校運営協議会を開いて、話し合ったことや熟議した内容報告は、毎回出てきているので内容は把握している。</p>
酒井委員	<p>学校運営協議会の原点を押さえ、地域とともにどういう子どもを育てるのかという熟議はしっかりしてほしい。様々な会議に出たり議事録を読むが、会議は協議ができにくい。市が前向きに色々なことに取り組もうとするのなら、この報告書の助言及び指導にも記載があるが、熟議のできるワークショップ手法も必要と考える。ぜひこれを周知徹底してほしい。</p>
酒井次長	<p>いただいたご意見は、大切なことと認識している。熟議をするためには、委員が学校の現状や地域実態をできるだけ多く掴み、それを元に判断しながら意見を出していくことが大事である。そのためには、学校からの情報発信が大事である。学校ホームページなどで情報が発信が十分できるよう、教育委員会からも指導していく。</p>
丹後教育長	<p>報告 5「令和 2 年度学校評価報告書について」学校教育課報告を求める。</p>
岸田課長	<p>《議案書に基づき報告》</p>
中村委員	<p>小学校評価について、コロナ禍の中、チャンスと捉えて組織的に取り組んでいる学校は、子どもに自己肯定感が育まれ学習に反映していると感じた。いじめ早期発見についても、話しやすい人間関係、雰囲気づくりは、「自分に自信が持てる」に繋がった実感を報告された。いじめの早期発見は、先生との話しやすい環境、コミュニケーションの大切さを感じた。</p> <p>朝のスキル時間は、基礎基本を学ぶ環境をありがたく思う。その後の自主学習意欲や主体的な学びに繋がっていると感じた。</p> <p>校長のリーダーシップは、教職員から児童、そして住民へと影響が大きいので、大変な状況下であるが頑張してほしい。</p> <p>次に中学校評価についてあるが、成果を%表示としている学校は、評価が正確で分かりやすい。予習も昨年度より 7%上昇し、生徒たちも肯定的に受け止め予習復習に取り組む生徒が増えているということがわかった。</p> <p>また長期休業中は、生徒と担任の対話や一言ノート活用で生徒の内面に寄り添っていただいている。</p> <p>「四つの力委員会」に取り組んだ学校があったが、参加した生徒から聞くと、「間違っても温かく答えて下さり、自己肯定感が持てた。地域の方々に手紙を書く機会も良い経験になった」とのことである。これが生徒会委員だけでなく、生徒全体に広がることを期待する。</p>
酒井委員	<p>学校評価は結構時間をかけて評価されている。教育委員会の手ごたえとして、学校評価制度をどのように捉えているか。成果はどうであるか。</p>
酒井次長	<p>制度として学校評価をしていくことは一定の効果があると考えている。目</p>

酒井委員	<p>標を立て、どのような方法で達成していくのかについて、教員だけで進めるのではなく、地域の方、有識者の方の意見をいただきながら、目標を達成するための1年間の取組の道筋を振り返り反省しながら、まず教職員が評価をして、その内容を次に関係者が評価することは有効であると考えている。ただこれが、学校運営協議会委員が学校評価をするという、自分たちでつくる方向を自分で評価する方式になっているので、評価の視点が、評価側に立ち、第三者としてみてどうであったかということを確認に出せるかということ、課題はあると考える。評価する側が冷静に、次へ繋げる評価ができる学校は更に進んでいくと考える。学校は、他校の評価を見ることも参考になるので情報の共有を図る。</p> <p>学校も、評価しPDCAサイクルをしながら頑張っていると思う。</p> <p>学力というと授業力の改善が1番だと私も思っていた。しかし、文部科学省の学力・学習状況調査等の結果を分析すると、それ以外の要素が非常に大きかった。学校外で学ぶ時間、教育費のレベルなど、子どもが置かれている環境によって違う。学校以外の部分が大きいということは、出てきた課題について、教育委員会として積極的な支援をするべきであると考えている。問題がどこにあるのかという分析である。就学援助の認定数をみると丹波篠山市は就学援助数が多い。それならば、教育委員会はどのような支援をしていくのか考えないと、真の学力向上には繋がらない。学校や地域努力だけではなく、教育委員会自身も予算の組み方から考えて手立てをしないといけない。そういう意味で教育研究所は分析・支援をする大事な要素となるので、教育研究所職員の人員の更なる充実も大事である。次年度に向けての課題である。</p>
丹後教育長	<p>報告6「令和2年度幼稚園・こども園学校評価報告書について」こども未来課報告を求める。</p>
竹見課長	<p>《議案書に基づき報告》</p>
中村委員	<p>園安全点検は、報告書に示している園と示していない園があるが、どの園でも点検しているという理解でよいか。</p>
竹見課長	<p>園安全点検は全園で行っている。</p>
中村委員	<p>昨今の危険すぎる異常気象に備え、避難場所確認、引き渡しや動線確認等、実際に想定した訓練の実施指導に期待している。</p>
	<p>教育委員会による支援策として、伝統文化に触れる保育活動を計画されているということについて、幼児期からふるさと教育の土台作りを行ってほしいと思うと同時に、私立こども園も同様に行ってほしい。</p>
	<p>また、園と小学校の交流を通じて幼児期から児童期への発達や学びへの連動は「丹波篠山の教育」の核としていただきたいと強く思う。私立こども園、市立幼稚園・こども園の隔てなく、指導を徹底してほしい。</p>
酒井委員	<p>園評価は誰が作成しているのか。</p>

竹見課長 酒井委員	<p>報告書の提出は園長からである。</p> <p>認定こども園以外の園長は併任園長である。併任園長がこれだけの評価をするのは難しい面もあろうかと思う。最終的な評価を園長がするのは勿論であるが、評価できる職員がしたほうが良いのではないか。評価についても周りの職員にできるようになってほしい。たき・味間認定こども園で、しっかりとした体制のなかで幼児教育ができてきている状況をみると、幼稚園で小学校長が幼稚園長との併任は時間的にも難しいと思う。幼児教育と学校教育は違う専門分野である。幼児教育の専門職員を育て、その職員が評価をするという組織体制を考えてほしい。</p> <p>子どもたちの自宅での生活についてであるが、保護者が子どもとタブレット端末を使って一緒に過ごしている様子を結構見かける。情報教育についての記載がなかったが、保護者とともに情報教育を十分していく必要があると考える。次年度の課題へ入れていけばよいと考える。</p>
丹後教育長	<p>報告 7「小中学校児童生徒の問題行動等について」学校教育課報告を求める。</p>
采女副課長	<p>《議案書に基づき報告》</p>
山本委員	<p>小学校の問題行動の件数について、1月から小学校児童の不登校数が増えているが、その原因は。</p>
采女副課長	<p>欠席日数 30 日以上で不登校とカウントする。2 学期末で欠席日数 20 数日であった児童が、3 学期になり 30 日を超えた事例が重なったためである。</p>
酒井委員	<p>中学校では、令和元年度問題行動件数が多かったが、令和 2 年度は少なかった。不登校生徒数も増加傾向が減少になった。一方小学校では、問題行動件数は元年度より 2 年度は増加し、不登校児童数も増加した。問題行動件数と不登校数の関係はあるのか。</p>
采女副課長	<p>教育委員会として危機感を持っている。ただ、問題行動と不登校の相関関係は直接的な関連はないと考えている。分析結果について報告する。</p> <p>まず中学校は、元年度末と 2 年度末で問題行動件数が三分の一に減少した。要因については、中学校教職員が授業の改善、わかる授業、子どもたちが活躍できる授業を目指し、1 年かけて授業を改善してきた。結果、生徒も落ち着いてきたと現場から聞いている。不登校数も 44 人から 38 人へ減少した。これも中学校で、今までの積み重ねによって子どもたちにアプローチする方法、子どもたちが自立していけるような環境を創り出せた為と捉えている。</p> <p>一方小学校は、問題行動件数が元年度末よりも 2.5 倍に増加した。ただ問題行動が発生しているのは特定の学校のみである。全体で 160 件程度あったが、うち 9 割以上がその特定の学校で発生した。ではその学校で不登校児童があったかということ 0 人であった。不登校は、昨年度からは中学校よりも小学校 3.4 年生に増えている。教育委員会としては、少しずつ不登校になりか</p>

酒井委員	<p>等では公開はされていない。</p> <p>本市が 0%ということは素晴らしいことだと思う。異物が混入した時の情報だけではなく、素晴らしい頑張りも情報開示するほうがよいのではないか。</p>
酒井所長	<p>公表するのであれば、保護者への心配にならないような公表の仕方も十分検討していきたい。</p>
丹後教育長	<p>報告 10「丹波篠山市立丹波篠山市民センター図書コーナーについて」中央図書館報告を求める。</p>
小畠館長	<p>《議案書に基づき報告》</p>
中村委員	<p>図書の福袋は楽しいアイデアで、借りる喜び、読む習慣に繋がればと思う。今後も新しいアイデアを期待している。</p>
丹後教育長	<p>報告 11「教育長報告」について報告する。</p> <p>それでは、第 1 回定例教育委員会をこれで終了する。</p>